２０代の元気いっぱい女子と下着乱交　フェスティバルで出会った男子二人

※この作品は著者の想像などから作ったフィクションであり、内容などは架空のものです。

街を歩いていて路上で見かけた看板。

数週間後に屋台や舞台での演芸など季節のフェスティバルが開催されるとキャラクターのイラスト付きで書かれていた。

この街へ越してきたばかりの俺。特段あまり何も思わずこの時は素通りしたのだが・・・・。

友人とそのフェスティバルに参加をしたのがもう数ヶ月前。春の初めだった。

歴史モノの衣装を着て女子たちが太ももとお尻丸出しで踊っていた。

大き目のウチワを買って春の夜を友人と楽しんでいた。

すぐ隣には道を横切るお尻がいっぱい・・・・。

そしてその夜に知り合った二人の女子とホテルでどこまでも激しく汗を流した・・・・。

神輿や太もも女子踊りのすぐそばで自然と知り合い、一緒に歩いているうちに話が弾み・・・・・。

そのあとしばらく屋台などを巡ったあと少しメイン会場からは離れた草むらの錆びたベンチでアイスを食べた。

そしてＬＩＮＥを交換。

・・・・・話はどんどん弾み、とある人づてで知った小さなホテルで一泊する

ことに。

・・・・・・・・・・・。

場所はフェスティバルの夜の草むらからすぐそばのところ・・・・。

この街はそれほど大きくない。だけどラブホテル、プールはたくさんある。

「男女でエッチするためにはここがおすすめだよ・・・・パイパンでシャワーのあとに裸で汗流せるから」

そう言ってそのホテルを教えてもらったのは、ここへ引っ越してきて仕事で知り合った先輩だった。

彼は昔からずっとこの街で暮らしている。

「・・・・周囲はあまり何もない草むらでさ、洋菓子屋があってその横にあまり目立たない小さなホテルがあるんだ」

とある休日カフェで話をしていた時にそのことを教えてくれた。

・・・・・その頃、出会うべくして出会

ったようなその女子二人は温泉でシャワーを浴びサウナへ行っていた。まだフェスティバルで出会う前のことである。

「へー・・・・そんなホテルが・・・小さくても男女たちが燃え上りそうですね」

先輩はアイスコーヒーを飲んだ。

「カップルで行くにはわりといいホテルらしいよ・・・・」

人口は少ない街だが・・・・・・一部ではハダカの淫靡なグループが独自の小部屋の中で体系を作り上げている。

フェスティバル後にベンチへ移動。

どこから来たのかなど楽しく話をしながらそのあと花火を四人で楽しんだ。

スカートの腰部、太ももを女子たちは自分で触ったりして・・・・。

キャピキャピと川のゆったりとした音を聴きながら。

・・・・気付かなかったが小川の向こうにそのホテルが見えていたような気がした。

・・・・・フェスティバルの前、この街へ引っ越してきてから趣味で続けているスポーツのテニス関連で会った友人と遊びに行く間柄となっていた。

仲良くなり・・・・・急スピードで・・・・・・・・・。

・・・・膝とその少し上の太ももまでが出た・・・・・夏用の薄布の着物。

夏の夜、エッチなことに興味津々な扇子

を片手に持った女子二人と出会ってからは流れは早かった。

・・・・・ホテルの三階。ベッドと床の上。

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）